

第7回愛知県柔道整復専門学校柔道大会・第3回(公社)愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会・第35回(公社)愛知県柔道整復師会柔道大会

中和医療 初優勝!

6月29日(日)、森川新体制初めてのイベントとなる第7回愛知県柔道整復専門学校柔道大会・第3回愛知県柔道整復師会少年形競技会・第35回愛知県柔道整復師会柔道大会が、県武道館第3競技場で行われた。専門学校大会は中和医療専門学校が初優勝を果たし、少年形競技会にて半田チームが3連覇を達成。愛整大会では中村支部が17回目の栄冠に輝いた。



専門学校大会は午前9時30分、県内の5校が参加して行われた。今回は、昨年4月に開校した名古屋医健スポーツ専門学校が初参加し、その戦いぶりが注目された。

竹内 康競技委員長の開会宣言、森川大会会長挨拶、田中俊彦審判長の試合上の注意のあと、東海医療科学専門学校・中島翔太選手の選手宣誓に続き、2試合場に分かれて7人制のリーグ戦が開始された。雌雄を決する最終戦では、全勝どうしの米田柔整と中和医療が対決。いきなり3連続一本勝ちを収め勢いづいた中和医療が、米田柔整の7連覇を阻み悲願の初優勝を果たした。

表彰式前には、「固の形」の演武が、半田支部会員の木之本達明(取:四段)・大元美久(受:弐段)にて披露された。

優勝 中和医療 準優勝 米田柔整 第3位 トライデントスポーツ
第4位 東海医療科学 第5位 名古屋医健

少年形競技会は12時30分から、本会各支部から選出された小学4~6年生の10チームにより従来どおり競われた。

藤川副会長の開会宣言のあと、水を打ったような静寂のなか、どのチームも練習で培ってきたレベルの高い技を披露した。その結果、一昨年・昨年に続き、森 正仁会員率いる半田チームが3連覇を果たした。得点は一昨年より昨年の方が高かったが、今年はさらに優勝・2位・3位でそれぞれ、18.5・12.0・5.5ポイント増えており、技量がさらに向

上していることが明らかになった。

午後1時35分、成績発表、表彰式に続き、長谷川副会長の閉会宣言にて終了した。

優勝チームは静岡県とともに東海東部代表として、7月27日の第4回東海少年柔道形競技会と、10月13日の第4回(公社)日整全国少年柔道形競技会に出場する。

優勝 半田 準優勝 刈谷 第3位 一宮



中村支部17回目の優勝

午後2時35分からは会員の大会が行われた。竹内競技委員長の開会宣言で始まり、森川大会会長が新任の挨拶に続き本大会の長い歴史を振り返るとともに、「ケガに注意して明日の施術に影響のないように精一杯力を合わせて頑張ってください」と選手にエールを送った。



今回から新しい国際柔道連盟試合審判規程に準じたルールで実施されることが田中審判長より注意説明された。選手宣誓は、前年度優勝の大曾根支部・平瀬守久会員が行なった。

試合は2時45分から2会場に分かれて10支部対抗のトーナメント戦で行なわれ、白熱した戦いが繰り広げられた。なかには新ルールによる反則負けに戸惑う場面も見受けられた。

決勝戦は中村支部と笠寺支部が対戦。実力に勝る強豪中村支部が4対1の圧倒的な強さで、2年ぶり最多の17回目の優勝を手にした。

表彰式終了後に、東海ブロック会柔道大会に出場する5選手が合わせて発表され、竹内競技委員長の閉会宣言にて午後4時20分終了した。

優勝 中村 準優勝 笠寺 第3位 刈谷・大曾根

第49回愛知県柔道整復学会

7月6日(日)午前10時から12時13分まで、愛整会館にて学会・研修会が開催され勤務柔道整復師7名を含む219名が出席した。

森川会長は、「学会の発足の目的は最新の医療・医学の情報を習得し研鑽をすること。会員各位には明日からの施術に少しでも役立つように情報を持ち帰っていただきたい」と挨拶した。

その後4名の会員が研究発表を行った。

1. プラスティックギプスを用いた体幹固定の方法

和家博明会員(笠寺)



安価で短時間に作成できる材料を使って脱着式体幹固定装具を作成し、臨床症状に合わせ固定範囲を広げる等の工夫をすることで症状軽減に効果があったことを報告し、有効性を示した。

2. 膝窩筋の三次元再構築による構造と機能

大口明良会員(大曾根)



人体連続横断画像データから膝窩筋の三次元画像を再構築して提示し、筋走行や外旋により摩擦抵抗を強く受ける構造であることを示唆した。

3. 愛知県の男子高校生レスリング選手に対するアンケート調査

細野 潤会員(一宮)



負傷に対するアンケート調査を行なった結果、「指・手」負傷数と合計負傷数に強い相関が見られた。この結果から「指・手」に着目し、上肢と体幹・股関節周囲筋の協調性を向上させる予防策をとることで、全体の負傷数を減少させられる可能性を示唆した。

4. 徒手療法が膝伸展筋力に及ぼす要因の一考察

太田昌夫会員(熱田)



膝痛のある2名と膝痛のない1名で、膝徒手療法実施前後の膝屈伸筋力と内旋・内転方向に負荷をかけての移動距離を測定。結果、下腿内旋と内転の手技により膝痛に対して筋力増強等に差異を認められたため、これらの手技が膝伸展の運動療法を行なう際の補助となる可能性があるとした。

研究発表4題/米田先生のご講演

第82回会員研修会

午前11時から、第82回会員研修会が行われ、米田病院・米田 實先生に「私の診察室から一最近のトピックス(この1年こう変わった)」と題してご講演頂いた。

先生は、「2週間以上疼痛が続く腰痛患者では、小中学生の約半数で新しい腰椎分離症が認められる。分離症は発見が早ければ早いほど骨癒合が期待されるため、超早期の状態が分かるMRIが有効である」と述べ、ストレッチや体幹トレーニングを含めて治療方針を提示された。また新鮮アキレス腱断裂は早期リハビリプロトコルによる保存療法でもっともよい結果が得られ、しかも低コストであるというお考えを述べられた。さらにMRIの進歩(高機能MRI)により見えてきた医接連携に関わるさまざまな症例を報告された。



Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
林 正子	S35.3.5	大曾根	中和医療	初段	ビーチボールバレー
水戸乾二	S40.7.7	大曾根	東京医療	初段	旅行

林 正子会員



ビーチボールバレーのジュニアチームをたち上げており、西尾張大会に参加した子供達と撮った一枚です。指導の他、怪我のケアにもたずさわっています。

水戸乾二会員



愛犬と一緒によろしくお願ひします。